



---

# スペシャルオリンピックス日本 アクションプラン 2026-2030

---

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本  
Special Olympics Nippon

2026年1月

本資料の無断掲載・複写・改訂を禁じます

ミッション	.....	3
ビジョン	.....	4
コンセプト	.....	5
アクションプラン全体像	.....	6
アクションプラン重点目標	.....	7
6つの戦略領域	.....	8～13
【参考】スポーツ庁の取り組み	.....	14



## < ミッション >

知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供すること。



## < ビジョン >

スペシャルオリンピックス日本は、知的障害のある人々とのスポーツを通じた様々なユニファイド\*活動により、多くの気づきと行動を生み出します。

**ステイトメント：**  
**多様な人々が生きる社会の実現をめざす**

**スローガン： Be with all**



※ 「ユニファイド」とは、知的障害のある人と知的障害のない人がペア/チームを組み、スポーツなどで活動を共にし、お互いを理解し合う、スペシャルオリンピックス独自の取り組み

## 確信から、変革へ

スポーツ基本法の制定から14年が経過した2025年6月、初の大規模改正が行われました。社会が大きく変化する中で、スポーツの価値や機能を再定義する必要があるとして、従来の「する・見る・支える」に加えて、新たに「集まる・つながる」というキーワードが基本理念に追加されると共に、国際的規模のスポーツ大会として、オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会に加え、デフリンピック競技大会とスペシャルオリンピックス世界大会が追記されました。

スペシャルオリンピックス日本は、「多様な人が生きる社会の実現」をめざし、Be with all をスローガンに、多様なステークホルダーとの共創を図ってまいりました。ユニファイド活動を通じた、新たな気づきと行動の創出は、社会の価値観を変革し、インクルーシブ社会の実現に資するものであり、改正スポーツ基本法に大いに寄与する実践的な取り組みであると確信しています。

ビジョン具現化を目指す第2章として、「アクションプラン2026-2030」では、スポーツの機会の提供に加え、ユニファイド活動を軸とした6つの戦略領域を定めました。知的障害のある人たちとともに、共生の輪を広げるため、スペシャルオリンピックス活動の意義や価値を社会に発信し、私たちは社会変革に取り組んでまいります。



# アクションプラン (全体像)

Special  
Olympics  
Nippon



Be with all



## 療育手帳発給数の **1%** の知的障害のある人のSO活動への参加

※SOAPの目標：アジア・太平洋地域に住む知的障害のある人の内 1 % のアスリートの参加、に準じ設定

## 「障害のある人が、過去 1 年間で障害のない人と一緒に運動・スポーツを実施した経験がある」**24.7%\*** の改善に貢献

※文部科学省・スポーツ庁『障害児・者のスポーツライフに関する調査/令和 6 年度』に基づく数値

## 5年先の2030年の姿

“Be with all事業”を中心に、企業・団体との協働事業や国・自治体との連携事業が行われると共に、様々な発信により、幅広いステークスホルダーがSO活動への理解を深め、多様な形での参加が増えている。さらに、ターゲットに合った発信や関係性の構築により新たなパートナー企業・団体の協力を得るほか、SO活動に参加する機会を安定的に提供できている。

## 取り組むべき課題 / 主な施策

多様なチャネルにおいてスペシャルオリンピックスの魅力を発信すると共に、より多くの人にユニファイドスポーツへの参加や大会等のボランティアに参加し、Be with allを体験できる機会を提供する。また、活動への関心度・関り度を分析することでより効果的な訴求施策に取り組むことで、活動への参加を促す。  
また、アスリート/パートナーが自身の体験を通じて、それぞれが想うスペシャルオリンピックスの意義や共生社会について発信し、スペシャルオリンピックスの価値と魅力を届ける。

- ・ 多様なステークスホルダーとの協働事業の推進と広報活動の展開
- ・ アスリート、パートナーによる発信
- ・ SO活動に携わる人の関心度や関わり度の分析を行う
- ・ 対象者毎に効果的なアプローチを検討し、施策を行う

## マイルストーン

- ・ SO活動に携わる人の活動への関心度や関り度を分析・整理が行われている。
- ・ 関心度や関りの度合いに応じた効果的な施策を実施している。
- ・ 企業・団体・自治体との連携した取り組みを強化し、共生社会の実現に繋がる機会を提供している。



## 5年先の2030年の姿

ユニファイドスポーツのプログラムが全国の地区組織で導入され、知的障害のある人、ない人が共にスポーツに参加できる（受け入れられる）環境が全国に整っている。また、小学生～大学生を中心としたユニファイドスクールの取り組みを通して、ユニファイドスポーツを経験する人が増えることや、ユニファイド事業を通して多くの人に参加の機会を提供することによって、知的障害の有無に関わらず共に生きる共生社会の実現に向けた動きが全国に広がっている。

## 取り組むべき課題 / 主な施策

インクルーシブ社会への理解を発信する取り組みとして推進するユニファイド事業において、地区組織と連携し、ユニファイドスポーツやユニファイドイベント/体験等のユニファイド事業への参加の機会の拡大に取り組む。また、小学校や大学を中心とした教育機関と連携するユニファイドスクールを中心に、ユニファイドスポーツに触れる機会を幅広い世代に提供することで、ジュニア層～若者層への知的障害のある人への理解促進をはかる。

- ・ 全国47地区組織にユニファイドスポーツの導入のサポート
- ・ ユニファイドスクールの推進・拡大
- ・ ユニファイドスポーツの研修等の実施
- ・ ユニファイドスポーツ推進イベントの実施
- ・ ユニファイドスポーツ国内大会の開催及び、地区組織主催大会への支援
- ・ ユニファイドスポーツ国際招待大会の開催、ユニファイドカップ等の開催招致活動

## マイルストーン

- ・ユニファイドスポーツのプログラムを全国47地区で、1競技以上実施されている。
- ・ユニファイドスポーツのプログラムをチーム競技とペア競技の2競技に地区組織の半数が取り組んでいる。
- ・ユニファイドスポーツに参加するアスリート/パートナー数が30%増加している。
- ・ユニファイドスポーツ体験をしたアスリート/パートナーが2,500人以上いる。
- ・ユニファイドスクールの実施校が30校以上で取り組まれている。

## 5年先の2030年の姿

スポーツ活動を通じて、アスリート一人ひとりが、技術面・精神面の成長を実感し、その成長を楽しみながら参加できる環境の中で、トレーニングを継続的に行い、全国のアスリートと交流することで、スポーツの持つ喜びとつながりを感じている。  
また、アスリート/パートナーが安心・安全にスポーツ活動に参加するために、コーチが学び続けられる環境を整え、コーチ育成を継続している。

## 取り組むべき課題 / 主な施策

スポーツトレーニングだけでなく、その成果を実感できる大会/競技会等の発表の機会を地区・ブロック・全国の各レベルにおいて、提供するために必要なサポートを実施する。さらに、アスリート/パートナーの特徴に合わせた指導、安心・安全な活動の提供に繋がるようコーチ資格取得者に対して、研修や講習など学び続ける機会を継続的に提供する。

- ・ 地区/ブロック 大会/競技会の開催支援
- ・ ナショナルゲーム・オンライン記録会等の開催
- ・ 世界大会・国際大会への選手団派遣/派遣体制の構築
- ・ 指導者養成の充実
- ・ 各種競技団体との連携
- ・ 新規コーチの拡大と育成

## マイルストーン

- ・ 競技会に参加しているアスリートが70%以上いる。
- ・ 地区組織において、地区競技会が継続的（定期的）に開催されている。
- ・ 新コーチ資格制度の確立と学び続ける機会の提供により、資格取得者が増加している
  - 新規コーチ資格取得者数増：1,000人以上
  - コーチ2以上取得者の割合増加：70%以上
- ・ 世界大会に派遣する競技において、競技団体の指導資格を保有するコーチが各競技において2名以上在籍している。
- ・ コーチアカデミーを定期的を開催している。

## 5年先の2030年の姿

SO活動に参加していない、未就学児・ジュニア層、MATP\*の対象となる人や、年齢、性別、運動能力等を問わず、SO活動に参加できるよう、全国で参加を受け入れられる環境が整っている。参加率の低い女性アスリート・コーチを増やすことによりジェンダーの平等を目指す。

※MATP（モーター・アクティビティーズ・トレーニング・プログラム）とは、SOの公式スポーツプログラムに参加が困難な介護度の高い身体障害を重複しているアスリートに提供するプログラム

## 取り組むべき課題 / 主な施策

全ての人々が安心してスポーツ活動に参加できる機会を提供すると共に、その環境の整備を推進すると共に、各地区組織において未就学～7歳までの子ども達（知的障害の有無を問わない）を対象にしたヤングアスリートプログラムの立ち上げ支援や年齢や運動能力に合わせたトレーニングプログラムの検討および試験的な提供の実施など、より幅広い活動の機会を地区組織と共に展開していく。

- ・ 女性を対象としたイベントの開催
- ・ ヤングアスリートのコーチクリニック・体験会の開催
- ・ ITを活用した参加機会の提供を検討
- ・ SON未登録者も対象とした、レクリエーションイベント等の開催

## マイルストーン

- ・ ヤングアスリートプログラムが20地区で実施されている。
- ・ ヤングアスリートトレーナー各ブロックで2名以上活動している。
- ・ 女性アスリート・コーチの参加が増加している。
- ・ オンライン記録会を3競技以上で実施し、各競技の登録人数の60%以上が参加している。
- ・ ITを活用した幅広い方のSO活動の参加に繋がる施策の検討と試験的な実施をおこなっている。

## 5年先の2030年の姿

SOIが実施する「ヘルシー・アスリート・プログラム」の全7部門を国内で実施できる体制を整えると共に、同プログラムを継続的に実施することで、アスリート・パートナーの健康意識を高め、より良いパフォーマンスを発揮できるようにファミリー、コーチにも情報を提供する。また、関係機関と協力し、医療従事者の知的障害のある人への理解を促進している。

## 取り組むべき課題 / 主な施策

ヘルシー・アスリート・プログラムを継続的に実施すると共に、国内では未実施の部門の導入を進めるほか、各地区組織においても地区大会等で実施できるようなサポートを行い、アスリート・パートナーの健康意識を高め、コーチ、ファミリーに対してもウェルビーイングの重要性の発信に取り組んでいく。  
また、医療従事者ならびに医療従事者を志す学生にボランティア参加の機会を広く促すことで将来的にアスリートが安心して医療を受けられる環境整備に取り組んでいく。

- ・ヘルシー・アスリート・プログラム(HAP)の実施
- ・地区組織における単一部門の実走実施支援
- ・HAP新規部門の導入（ストロングマインズ\*）
- ・クリニカルディレクター（医療従事者）によるセミナー実施
- ・新規医療従事者・学生のボランティア増加

## マイルストーン

- ・継続的な検診チェックの機会や、健康に関する情報提供をしている。（スクリーニング数：1000名/5年間）
- ・ストロングマインズ\*を導入し、ヘルシー・アスリート・プログラムの全7部門を国内で実施する環境が整っている。
- ・医療従事者の参加が拡大している  
（医療従事者・学生のボランティア数のうち30%が新規）

※ストロングマインズ

メンタルヘルスにおけるストレス対処スキル（コーピングスキル）の習得を目的とした、参加型の学習活動

## 5年先の2030年の姿

持続可能な組織運営にむけ、役員体制の検討を進めると共に、経営課題把握と財務構造の改善に取り組む。また、SONならびに地区組織がスポーツ団体ガバナンスコードを遵守した組織運営を推進し、アスリートを含め活動に参加する人にとって安心・安全な組織運営がおこなわれている。

## 取り組むべき課題 / 主な施策

国内におけるSO活動の拡大に向けて、将来を見据えた役員体制の検討を行うと共に、経営課題の把握に向けた財務分析と財務構造の仕組化に取り組み、組織基盤の強化を図る。

SONならびに地区組織がスポーツ団体ガバナンスコードを遵守した組織運営に取り組み組織全体ガバナンスの強化を推進するほか、活動を拡大・推進する地区組織の認証基準の見直しを図り、地区組織の状況の把握とそれに応じた支援に取り組む。

- ・ 組織全体におけるガバナンスの適性運用
- ・ SO活動におけるインテグリティ向上
- ・ 財務構造の改善と基盤強化
- ・ 国内SO組織の再定義
- ・ 人財マネジメントの推進（多様な人財登用）

## マイルストーン

- ・ 将来の組織運営上に必要な役員体制の検討が行われている。
- ・ SONならびに地区組織がスポーツ団体ガバナンスコードを遵守した組織運営を行っている。
- ・ SO関係者のセーフガーディングの理解が広がっている。
- ・ 経営課題の把握および財務構造の改善と、基盤強化されている。
- ・ 地区認証基準を策定し、地区組織の運営状況を把握し活動を認証している。
- ・ 人事評価制度を再構築し、運用が行われている。



## 【参考】スポーツ庁の取り組み

### スポーツ基本計画

スポーツ基本法に基づき、文部科学大臣が定めるスポーツに関する施策の総合的・計画的な推進を図る重要な指針

### 第3期スポーツ基本計画（R4年3月25日策定）

今後のスポーツの在り方を見据え、令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間で国等が取り組むべき、施策や目標等を定めた計画

### スポーツの価値を高めるための新たな「3つの視点」

- ① スポーツを「つくる／はぐくむ」  
社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。
- ② スポーツで「あつまり、ともに、つながる」  
様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。
- ③ スポーツに「誰もがアクセスできる」  
性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。

“Be with all”の社会にむけて、  
地区組織と共に長年、  
私たちが全国で取り組む  
活動そのもの！

### 改正スポーツ基本法（2025年6月改訂）

スポーツを通じた共生社会実現への期待が込められた内容に改訂されたことが示唆される  
第二条基本理念 国際的な規模のスポーツ競技会の例示に「スペシャルオリンピックス世界大会」が追記された